

2022年8月9日

各 位

会 社 名 株式会社ジャパンディスプレイ
 代表者名 代表執行役会長CEO スコット キャロン
 (コード番号 6740 東証プライム)
 問合せ先 代表執行役CFO 大河内 聡人
 (TEL. 03-6732-8100)

2023年3月期第1四半期連結業績予想と実績との差異（売上高下振れ、損益上振れ）のお知らせ

2022年5月13日に公表しました2023年3月期第1四半期（以下「当第1四半期」）の連結業績予想と本日発表の実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

1. 当第1四半期連結業績予想と実績の差異

当第1四半期（2022年4月1日～2022年6月30日）

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	62,450	△10,200	△12,500	△12,800	△12,350	
実績値 (B)	57,099	△4,711	△6,872	△4,324	△5,074	△1.08
増減額 (B-A)	-5,350	+5,488	+5,627	+8,475	+7,275	
増減率 (%)	-8.57%	—	—	—	—	
(ご参考) 前年同期実績 (2022年3月期第1四半期)	65,961	△3,716	△5,872	△6,358	△6,992	△2.68

2. 差異の理由

当第1四半期は、上海での新型コロナウイルス対策のロックダウンの影響により、車載用ディスプレイ生産に要する部材の調達難が生じて生産減を余儀なくされました。また、自動車メーカーにおいても、半導体不足の継続やロシアのウクライナ侵攻に起因するワイヤーハーネス不足等による大幅な生産制約が生じたことから、当社の車載用ディスプレイの受注が減少いたしました。この結果、車載分野の売上高が予想を大きく下回り、全体の売上高も予想を下回りました。売上高が減少した一方、費用の圧縮、車載分野における第2四半期以降の出荷増加に向けた在庫積み増し、及び円安の効果により、EBITDA、営業利益は前回予想より改善いたしました。また、為替差益（営業外収益）2,773百万円の計上もあり、経常利益、親会社に帰属する四半期純利益も前回予想より改善いたしました。

なお、業績予想の前提為替レートは1米ドル=123円としておりましたが、実績為替レートは1米ドル=129.7円となりました。

以 上